盾する住民の安全で快適な生活というものへの配慮との釣合をどのようにしてとるか，を根本的に考えねばならない時期に来ているということを痛感した。　（４年　石　田　真知子）

い　わ　き　市　（内藤先生）

昭和４６年４月１０日～１２日

〔コース〕

１０日　常磐共同火力発電所・名笏工業団地

１１日　湯本温泉集落・常磐炭鉱磐城鉱業所　小名浜港

１２日　東京通商産業局平石炭支局　好間炭鉱閉山跡

一般産業・暖厨房向けは勿論，近年電力用としても石炭の需要は減少し，石炭産業の斜陽化が続いている。内藤先生の御指導で，私達が訪れたいわき市は，常磐炭田の中心で，昭和２６年１２５，３０年９８を数えた炭鉱も，閉山を余儀なくされ，今では６炭鉱を残すのみとなっていた。従って各町で暗い印象を受けたが，小名浜港だけは非鉄コンビナートとして日本一の規模を持ち，炭田地域とは対象的であった。次にテーマに沿って，巡検報告をしようと思う。

〔炭鉱の閉山に伴う地域社会の変容〕

常磐炭鉱磐城鑛業所は，明治１６年操業開始し年間２００万ｔの採掘をしてきたが，最近の公害規制で高硫黄炭の為嫌われ，良質炭の減産も重なり経営不振で，昨年１２月に閉山宣告を行なった。３８５３人の解雇者は，地元での再就職が難しく，約２０００人は県外就職で，多くは君津市周辺の重工業の会社に行く。炭住からは２年以内のたちのきを迫られている。

湯本は，８６軒の旅館が立ち並ぶ温泉集落である。しかし，内湯ではなく，炭鉱の付属湯を使っている為，大きな打撃を受ける。昭和３０年に，産炭地振興を主目的に設立された共同火力Ｋ.Ｋ.も石炭不足が問題となってきた。現在出力７２万KW，２６０～７０万t／年間消費炭で，石炭火力では日本一の規模を持ち，電力供給源として不可欠になったが，政府が４８年迄しか一般炭の保証をしていない為，重油への燃料転換策が進められねばならない。これ等の影響を考慮して，５月８日から新会社が発足し，良質炭のでる西部鉱は存続が決定した。

好間村は，古河系の好間炭鉱があったが，４４年に閉山した。村の人は，３５年から３２％も減少したと言う。心地良い春風の中で荒廃した炭鉱施設や，ほとんど空屋となった炭住の真黒な光景や，残務処理にあたっている人々の御苦労を見て，閉山に伴う周辺地域への影響の大きさを，一層

よく教えられた。跡地利用の例として，名笏工業団地を見学した。合理化事業団の努力にもかかわらず，用水不足の為，大企業の誘致ができず，中小企業が点々と入っているだけであった。

〔臨海工業地帯の形式と港湾機能の変化〕

江戸時代以来東北米・常磐炭の積出し，昭和に工業原料の運び込み，戦後は傾斜産業方式とタイアップして石炭積出しの復活，現在はトランパーによる原材料輸入が中心と，小名浜港の機能は変化した。港は県所有で，企業誘致の優遇措置として，各工場は非常に安い使用料で使う。外洋に面し良港に恵まれないこの地方で小名浜港の果す役割は大きい。　（4年　多　久　美代子）

お　知　ら　せ

1. 投稿規定

- お茶の水女子大学地理学科卒業生及び旧，現職員は本誌に投稿することができます。
- 用紙は横書き４００字詰原稿用紙とします。
- 投稿の範囲，内容は特に規定しませんが，研究論文・調査報告・近況報告・ずい筆などが望ましく，１４号は松井先生の退官記念号となりますので，とくに献呈論文を募集します。
- 論文は１５～３０枚，報告・ずい筆は３枚程度とします。
- しめきりは，９月末日です。
- 原稿送付先

〒１１２　東京都文京区大塚２－１－１

お茶の水女子大学地理学教室内　お茶の水地理編集部

2. 住所・勤務先の変更，改姓の場合も上記宛御連絡下さい。
3. クラス会・同窓会などの様子もおしらせ下さい。
4. 「お茶の水地理」は御希望の方に実費でお頒け致します。このたび振替口座を開設しましたので御利用下さい。

振替番号　東京　１８４８番